



○ 袴

専門学校や大学の卒業式・成人式などでは女子学生の着物と袴姿をよく見かけます。そのPRで下松からエミールさんが来校され、学生たちの試着体験を行っていただきました。授業中は学生も来ませんので、私はその合間を見て担当の方と“井戸端会議”をしてしまいました。

話題はありとあらゆる方向に支離滅裂に広がっていきましたが、最初は着物の話題から入りました。「タキシードなどのフォーマルウェアという洋装では自分の体形が変わったとき作りかえなければなりません、着物の場合少しは融通が利きますよね。」というあたりからです。

お子さんもいらっしゃるようなので、我が子を幼稚園や保育園に預けるときの話もありました。自分の娘の時もそうでしたが、保護者はその子が最初で最後なので「園でどのように過ごしているのか、保育士さんにはどのように接してもらっているのか不安でしょうがない。」というのが本音だと思います。兄弟姉妹が何人いようと“その子”にとっては何事も最初の経験です。以前このたよりで保護者との「連携」が大切であるということを書きましたが、この点ですね。

その後話題が進展し、この KOCHO だよりのことにも行きました。内容が多岐にわたりましたのでここでは省略します。

女性の袴姿ですが卒業式と成人式で着用する機会があります。通常はそれで終わりということが多いでしょう。しかし、幼稚園・保育園、小中学校など業務の中に入学式や卒業式がある職場では着用する機会はたくさんありそうです。レンタルもいいですが、長く袴とお付き合いする人はどういう方法がよいかじっくりと考えることが大切になるでしょう。

さて、“流行”はいつの時代にもはやりすたりがありますが、「いいものはいい。」というものもありますね。「本質」ということばで表現することができるかもしれません。和服は洋服と比べて、どちらかというところ「流行の変化があまり大きくない。」と言えそうです。和の模様は伝統的なものから最新の斬新なデザインもあります。その二つも双方が対抗するのではなく、共存していると私は思います。

ハワイの服装で思い出されるのがアロハシャツですね。大胆で派手な模様が常夏の国にふさわしい印象を受けますが、もとは日本の着物（浴衣）ですね。「日本＝質素、わびさび」みたいな印象もありますが、大胆なデザインも日本の専売特許です。戦国時代の武将が戦で身に着ける甲冑にはものすごいデザインのものがあります。浮世絵もそうですが日本のデザイン感覚の大胆さが欧米の人々の度肝を抜いてきた歴史もあります。我々日本人は自分の国の伝統美に誇りをもちましょう。

雑談からいろいろな話に進展していきました。



唐草模様：蔓草の生命力を発展・繁栄に  
兜：蝶の軽やかな身のこなしに戦勝祈念  
凱風快晴：大胆な色面構成に  
ゴッホもびっくり！

画像は Wikipedia から  
コメントは須内による